



船舶に係わる標準化に関するアンケート（2024年度）



2024年10月 4日
第41回標準部会

アンケートの実施概要

- ◆ 実施期間: 2024年 6月 18日～ 7月 25日
- ◆ 実施対象: 当協会の賛助会員及び標準部会(分科会、WGを含む)約200社(注)
(注) 団体賛助会員からその構成会員へ通知されているものは含まない。
- ◆ 回答数 : 61 (昨年度: 73、一昨年度: 53)

設問	質問内容	設問	質問内容
1	JIS F、ISO/IECの新規提案要望	5	船技協の標準化関連研修及びセミナーへの参加
2	既存のJIS F、ISO/IECへの改訂要望	6	その他
3	新規原案の作成又は既存規格の改訂作業に係る主導の可否(設問1.および2.に関連した設問)		
4	注目の新技術		

設問1: JIS F、ISO／IECの新規提案要望

◆ 回答数(意見有) : 4

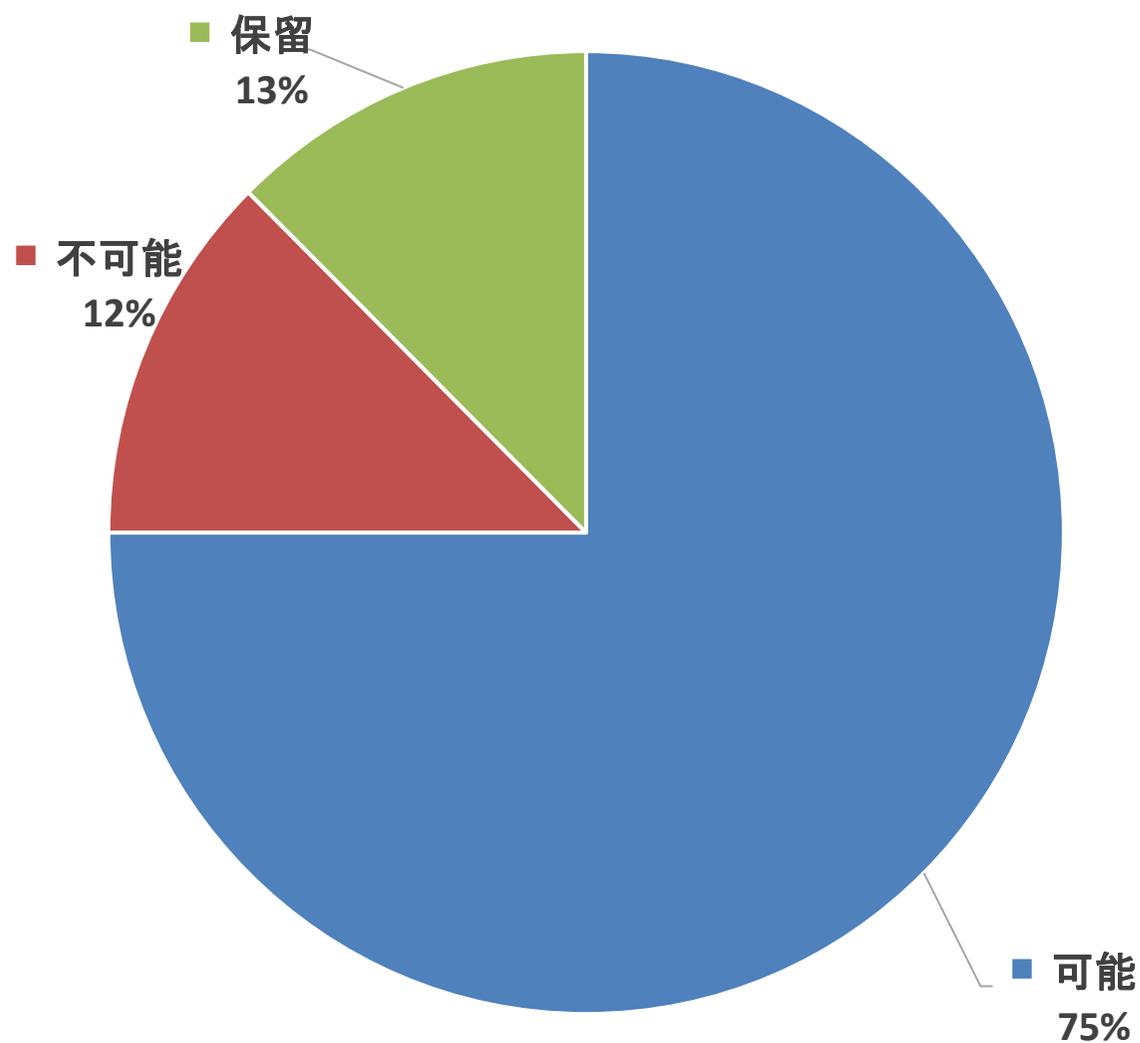
回答者	製品・試験名	概要	対応
検査機関	代替設計に関する承認スキーム	近年、代替燃料や新技術を船舶に適用する事例が増えている。このような新しい設計は、既存の法令や条約では対応できず、主管庁による承認を得る必要があり、IMOからガイドライン等が発行されているが実務上、これらのガイドラインだけでは対応が取れない場合もある。このため、これらガイドラインやこれまでの知見を取り入れたJISを作成してはどうかと考えます。	2025年度事業調査研究案として採用。
造船会社	液化水素運搬船および水素燃料船での使用が想定される各種専用機器の機能、検査方法	具体化中	提案者と協議の結果、2025年度事業による規格化議論にまだ乗せられる段階にはないことを確認した。今後も定期的な意見交換を継続する。
製造業者	陸電IEC80005-3の範囲を外れる場合の国内規格化	IEC80005-3の範囲を外れる、即ち、400Vクラスで250A未満、400V未満での船舶への給電方式を早急に規格化する必要があると考えます。なぜなら、このクラスの給電容量を必要とする内航船が日本国内では多く存在するし、現在、規格化されてない状態で、種々ばらばら(各々の方式)で陸電の実施がすすめられているゆえ。	提案者と協議の結果、船技協を含む7社が幹事会社となり取り組んでいる「船舶向けゼロエミチャージャー普及推進協議会」の設立目的が、「界標準汎用型船陸給電ステーションの普及」であり、この提案と重複するため、状況を見守る必要があることから、2025年度事業の調査研究案への採用は見送る。
団体	JIS Fとは相違しますが、船用電線(JIS C 3410)に外装無し電線を追加いただきたい。		JIS C 3410は、船技協が作成団体ではなく、一般社団法人日本電線工業会が作成団体であるため、同会へご要望があったことを伝えることで対応とする

◆ 設問2: 既存のJIS F、ISO/IECへの改訂要望

◆ 回答数(意見有): 4

回答者	製品・試験名	概要	対応
製造業者	JIS F 8062, 船用電気設備第201部 システム設計-一般(IEC 60092-201)	IECの改定から時間が経過している。内容は承知していない。	電気設備分科会で既に対応中。
造船会社	ISO 15016, 速力試運転データ解析	直近の改定が意図せぬ形で行われたため合理的な内容に修正する。風向風速計の計測原理の限定など。	国内対応委員会で新しい国際規格の実施に関する情報収集から対応する。
製造業者	ISO-14509-1:2018, 舟艇-動力付レクリエーション用クラフトから放出される空気伝播音-第1部:パスバイ試験の手順	船外機の標準艇範囲が、Scopeの艇長最大24mに対して、7.5m、最大出力も150kW<Pと大型化に伴い見直す時期に来ている。	舟艇分科会にて今後検討を行う。
製造業者	JIS F3301, アンカー	8. (b)落下検査及び8. (c)つち打ち検査 落下検査に再現性がなく、且つ試験実施による近隣への影響を考慮すると実施できる機関が限定的であり、実用的ではありません。 代替検査(非破壊検査など)を新たに制定し、落下検査省略の選択が可能にすることが必要と考えます。	提案者に確認した結果、具体的な内容まで社内調査、協議ができていないことが確認されたため、提案者から再提案を受けたのち、国内対応委員会で検討を行う。

- ◆ 設問3: 新規原案の作成又は既存規格の改訂作業に係る主導の可否(設問1.および2.に関連した設問)
- ◆ 回答数(意見有): 8(可能回答には要支援を含む)



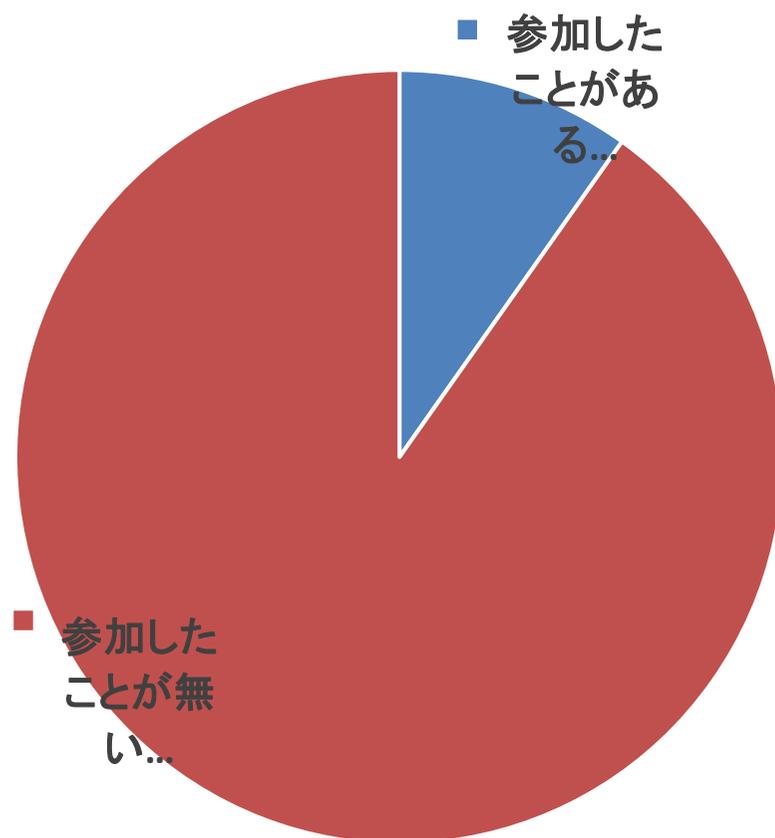
◆ 設問4: 注目の新技術

◆ 回答数(意見有): 16

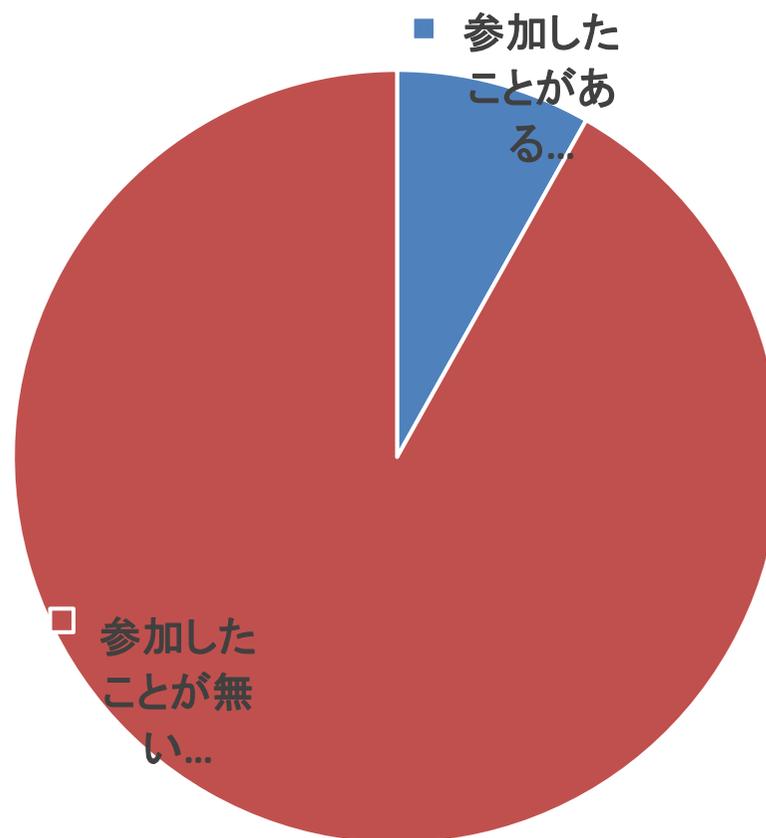
回答者	注目の新技術
船主	昨今流行のAIを用いた画像認識技術について、航海用レーダー型式承認試験基準のように最低限のスペックの担保又はユーザーが性能を把握しやすくなる指標の作成がなされると良いと感じています。
造船会社	特段の資料はありませんが、新燃料(アンモニア・メタノール)関連の機器・部品に注目しております。
造船会社	液化水素貯蔵用高断熱タンク、液化水素貯蔵タンク用液面計
製造業者	アンモニアガス燃料船
製造業者	次世代船舶
製造業者	新燃料に対する機器の標準
製造業者	自動生成AIを使ったVRとその応用
製造業者	アンモニア、水素燃料関係の規格、規制には関心があります。(但し、提供できる資料はありません)
製造業者	無人運航、省エネ技術
製造業者	IMOのGHG削減戦略に対応可能な低炭素・ゼロ炭素燃料を使用するための要素技術、及びインフラ構築のための技術
造船会社	・PLC(Power Line Communication)の標準化 ・船舶サイバーセキュリティ要件の標準化 ・リモートアクセス標準化(陸→本船) ・ネットワーク設計標準化(IPアドレス、アクセス制御、OT/IT分離など) ・低軌道衛星(スターリンク)設置、利用の標準化
製造業者	電気推進、搭載蓄電池
製造業者	電池規則の整合規格発行後にJIS化、改訂が想定される。
造船会社	代替燃料
造船会社	船用全個体電池、直流配電装置(配電盤や保護装置)など
製造業者	液化水素に関わるもの

◆ 設問5: 船技協の標準化関連研修及びセミナーへの参加(回答数61)(1/3)

標準化研修(初級編)への参加

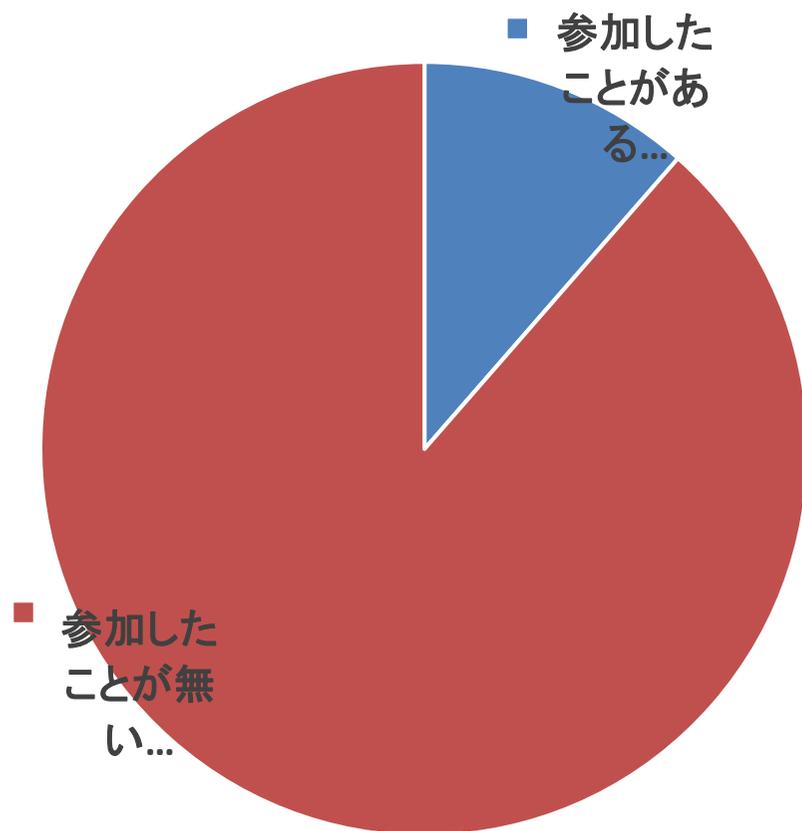


標準化研修(中級編)への参加

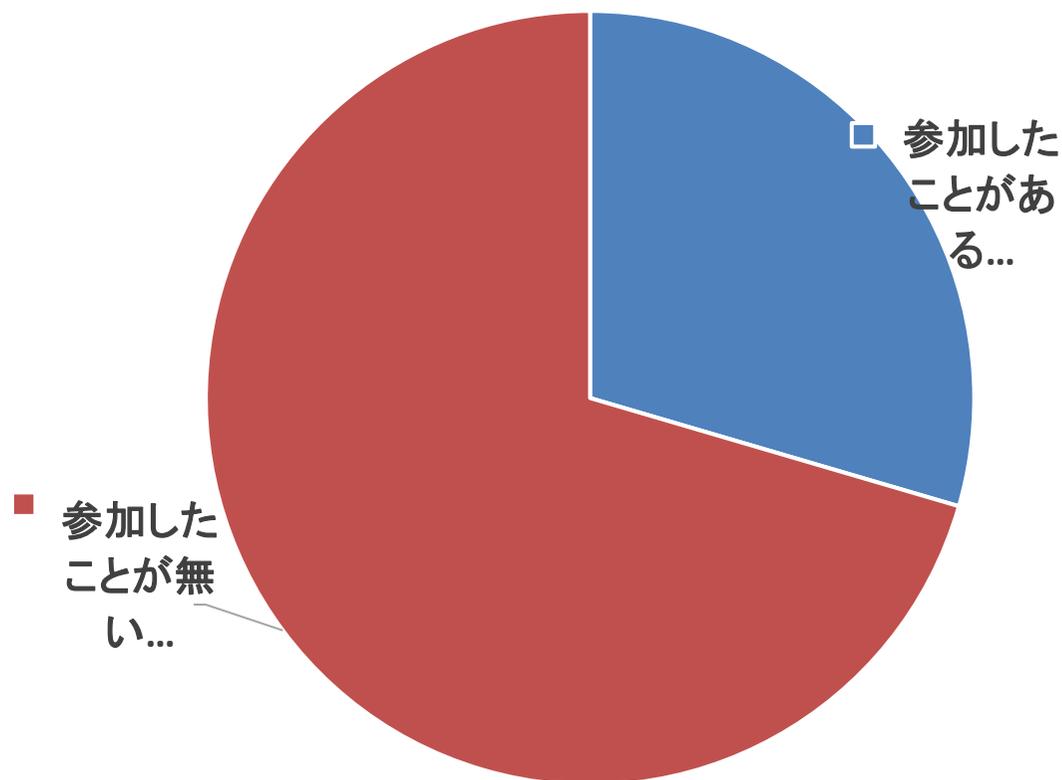


◆ 設問5: 船技協の標準化関連研修及びセミナーへの参加(回答数61)(2/3)

標準化研修(戦略講座)への参加



標準化セミナーへの参加



◆ 設問5: 船技協の標準化関連研修及びセミナーへの参加(3/3)

◆ 回答数(意見有):11

回答者	研修及びセミナーへの希望
団体	最新の技術動向や、標準化を取り巻く状況についてのセミナーを希望します。
造船会社	国際標準化実務経験者による実践的教育
製造業者	Web/オンデマンド形式
製造業者	今のままでよいと考えます。
製造業者	新燃料関係のセミナーには興味があります。
製造業者	標準化の際に気を付ける点(記載方法等)を知りたい
製造業者	規格化についての知識を維持・向上させるため、定期的に参加したい。
造船会社	規則・基準の読み方、解釈可能な範囲、代替方・改正案の提案を中堅技術者に修得させる研修
製造業者	基礎的な講習は人事異動もあり、定期的開催をお願いしたい。また、CFP/LCAに関する統合的なセミナーを希望します。
製造業者	セミナーや会合など、専門知識を深める場が御座いましたら、案内頂けると幸いです。
製造業者	最新技術

- ◆ 設問6: その他
- ◆ 回答数(意見有):7

回答者	ご意見
団体・製造業者2	標準化についてのリーダーシップや事務局業務を行っていただき、大変感謝しています。ありがとうございます。
製造業者	船級協会規則とIEC / JISがダブルスタンダードにならないように進めてほしい。
製造業者	GHG削減に関して、アンモニア、メタノールなどの燃料適用になり従来規格の見直を検討する必要がでてくると考えます
製造業者	ALL JAPANの推進
団体	EU規制当局においてLNGのCI値(well to wake)が高めに設定されている等の動きがある中で、低いCI値のLNGを供給及び調達する事の価値が反映されるようなGHG規制や仕組み作りについて情報共有したい。